

「社員間の土づくりコミュニケーションの円滑化と食味バラツキの改善」

富山県南砺市 土壤医 吉田 剛

1. プロフィール

- ・有限会社さくさく村
- ・代表取締役・村長 吉田 剛

2. 土壤医検定試験取組みの目的

弊社では、水稲と柿の栽培をし、仲間の生産者のお米も一緒に消費者や小売店等へ直接販売してきました。農業を実践しながら独自に土壌学、肥料学、作物生理学の分野（学問）を勉強してきました。

3つの分野は、栽培の実践の場において深く関係しているにも関わらず、学問としては別々に扱われています。そのため、3つの分野を関係づけて、現場に生かすことに苦労しました。

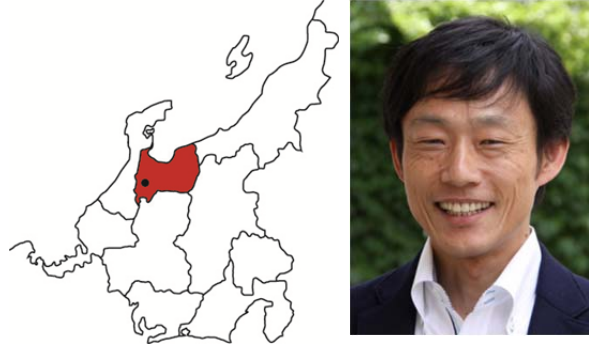
土壤医検定のテキストでは、土壌を中心に3つの分野を関係付けてまとめてあるため、一つとして勉強することができます。

栽培技術は、「土壤医検定」を通して学ぶこ

3. コミュニケーションの向上と

食味バラツキの改善

弊社と複数の生産者がそれぞれの栽培エリアで、水稲を栽培し、自社で精米加工をして、消費者へ直接販売をしています。土壌の数値と肥料の種類と量、そして、食味と品質を相関して、改善を図っています。栽培エリアによって、土壌の養分や土性が違います。土壌養分の量と土性に合わせて、肥料の種類と量



とは、基となる根や幹の部分を知ることになります。

そして、土壌分析により土壌の環境や肥料のこと、土作りのことを数値として定量的に知ることができます。このため、栽培の結果と肥料、土壌の数値を関係づけて、自分で考え改善をすることができるようになります。そして、自らの栽培を客観的に見るようになるようになります。

を変えることで、食味と品質を改善することができました。個々生産者の食味のバラツキも改善しました。

図は、弊社で調べた「お米の食味と土壌リン酸と保肥力（CEC）の関係」です。リン酸と食味には関係があることが分かったので改善を進めました。

食味の良くないエリアの田んぼが分かり、その田んぼに合わせて肥料設計をするため、改善を測ることができるようになってきました。

社内でも土壤医の資格試験が浸透し、ほとんどが2級、3級を取得しています。皆、土壤用語が分かるので、栽培のコミュニケーションがとりやすくなりました。

今後は、土壤医の知識に農業IoT技術を取り入れ、気温や湿度など環境数値の記録を生かし、栽培が上手くいったときと、そうでない時の違いを知することで、品質改善、工程

改善のスピードがアップをしていきたいと思っています。



お米の食味値とリン酸とCECの関

